



去る11月18日（水）午後、おもに入院患者様に、ひととき音楽に耳を傾け、こころ穏やかに気晴らしをして頂けたらという趣旨から院内コンサートを開催いたしました。

外は雨模様で足元が悪いにもかかわらず、みどり病院内外から約60人の聴衆が参加され、会場は熱気と拍手に溢れました。

今後も年2回ペースで開いてゆきたいと思っておりますので、乞う、ご期待。



心臓弁膜症センター オープンカンファレンスのお知らせ

- 日 時** 毎月第4木曜日18時～20時
- テーマ** 心臓弁膜症の手術症例を中心に
- 対 象** 医療従事者 **参加費** 無料
- 申込方法** FAXまたはメールにて
 FAX：078-928-1718（担当：医局秘書）
 メール：ikyoku1@midori-hp.or.jp



ご当地今昔物語 第5回 蛸壺や～

俳聖・松尾芭蕉は、明石まで来たことがあります（1688年）。「明石夜泊」とだけ前書を付けて、「蛸壺や はかなき夢を 夏の月」と詠んでいます。紀行文『笈の小文』の掉尾を飾る句です。

現在、明石市立天文科学館の裏手、すなわち、柿本神社の門前に、この句を刻んだ「蛸壺碑」があります。（初回の建立は1768年。その後、何度か建て替えや移動をしています。）

しかし、旅を終えて間もなく郷里・伊賀上野の門人に宛てた手紙によれば、実は芭蕉は明石には泊まらず、須磨まで引き返して泊まったというのが定説です。「明石夜泊」はフィクションだということです。

芭蕉の旅の一つの目的は、名所旧跡（歌枕）を訪ねることでした。この手紙には、道中の覚書として「古塚 十三」とあり、「敦盛塚」、「人丸塚」など13基の名前だけが列挙されています。

ところで、柿本神社の西隣の（別当寺の）月照寺の由緒を辿ると、平安時代に、弘法大師が赤松山（現在の明石城跡）に楊柳寺を建立（812年）、住職の覚証（かくしょう）が、歌聖・柿本人麻呂の神霊がこの赤松山に留まる夢を見て、奥院に人麻呂廟を建て（887年）、寺名を月照寺と改めたといひます。しかし、江戸時代に入り、それまで明石川西岸にあった船上城（ふなげじょう）を廃して明石の城を築城するに当たり、塩屋、人丸山（もと赤松山）、和坂（かにがさか）の三候補地の中から、二代将軍・徳川秀忠が人丸山を選んだことから、それまで人丸山にあった人丸社および月照寺を、築城とともに、東に遷座させました（1622年）。ちなみに、人丸社と月照寺は、明治初年（1868年）からの神仏分離政策（神仏判然令）により、現在の柿本神社と月照寺とに分かれました。

では、芭蕉は、実際は、どこまで足をのびたのでしょうか？現在、明石城本丸跡の坤櫓（ひつじさるやぐら）のすぐ東脇に残る「人丸塚」（と呼ばれる盛り土）は、遷座の後も「人丸宮」として城の鎮守を務めたとも、あるいは城内の庭園の築山でなかったかとも言われ、これが芭蕉の訪ねた「人丸塚」かどうか、定かではありません。いずれにせよ、明石城内にあった「人丸塚」を町人が自由に見物できたとは思えません。冒頭に掲げた句は、覚証が見た人麻呂の「夢」枕、そして「月」照寺を詠み込んだ句ではないか。とすれば、柿本神社境内の「播州明石浦柿本太夫祠堂碑」（1664年建立）、通称「亀の碑」までは来たと見て良いでしょう。（事務局 津田明彦）

